



第 3504 図

しばくさねむ

一名しばねむ

Smithia japonica Maxim.

本州(紀伊、周防)、四国、九州の暖地に多い1年生の雑草で、茎は円柱形平滑、高さ40-50cmに達し、屈折してよく分枝し、葉は長さ2-3cm、偶数羽状複葉で互生し、小葉は3-9対、長楕円形、上方はやや広く、円頭で1小鬚毛におわり、基部鈍形、下面は白毛を帯び、葉縁は羽軸と共に粗毛があり、微柄を有し、托葉は膜質刀状披針形で下方に耳あり、中部にて着生して楕形をなす。秋に上方の葉腋から細長な柄を出して短縮した総状花序をつけ、帯藍白色の花を密接して開く。小梗は短かく、基に披針形の小苞1個があり、更に花に接在して大形葉状の苞が2個ある。萼は2唇状をなし、上に2歯、下に3歯、縁に粗毛があり、雄蕊は2体をなし、莢は萼間に閉在し、数節あり、節間は略円形をなす。

しろうまおうぎ

Astragalus shiroumensis Makino

本部中部の高山(白馬岳、荒川岳、北岳、塩見岳)などの岩隙、草原に生ずる多年生草本で、高さ10-20cm内外。硬い根茎から数茎を傾臥し分枝しつつ斜上、やや長柄の羽状葉を互生し、全体に黒褐色短毛を散生する。托葉は小形、卵状三角形、小葉は5-7対、狭長楕円形、円頭、鈍脚、下面に白毛がある。7-8月頃葉腋から長柄のある総状花序を葉上に出して稍と密に10個内外の白色蝶形花を少しく偏側横向して開く。小梗は短く、萼に黒褐色の毛があり、歯は3角形、莢は刀状長楕円形、先端は尖り、背面に溝があり、初め有毛、後無毛となり、花序の軸から斜に垂下する。

第 3505 図

めくらふじ

一名ひめふじ

Milletia japonica A. Gray
var. *microphylla Makino*

ナツフジ一名ドヨウフジの栽培変種である。高さ60-100cm許、直立性の落葉小灌木で茎は細長、葉は母種よりやや密に生じ、羽状複葉で長さ3-5cm許あり、小葉は5-6対あり、母種より小形、狭長で、披針形を呈し、基部は鋭形で短柄を有する。頂小葉は最も大形で、長さ1.5cm許あり、漸次鋭尖し、端に1微尖がある。葉質はやや薄く、両面緑色で光沢があるが、母種よりやや毛が多く、特に葉脈上の毛は著しい。花を開かない故に盲藤の名がある。又全体が小形であるからヒメフジの名を得た。



いぬかんぞう

Glycyrrhiza pallidiflora Maxim.

北支からウスリー地方原産の多年生草本で稀に栽培される。根は太くゴボウ様、茎は高く1mにもなり、若枝はほぼ無毛で腺点がある。葉は羽状複葉、小葉は4-6対、楕円形で両端やや細まり、長さ5-40mm、巾3-15mm、両面に腺点があり、揉むと臭がする。6-7月、葉脈から短い密な総状花序を出し、淡紫色の蝶形花を開く。花梗はごく短く、萼は腺点があり5中裂し、裂片は披針形。旗弁は長楕円形で長さ約8mm、他の弁は遙に短い。莢は楕円形で長さ約1.5cm、長い刺毛がある。この類の根を乾したものを「甘草(カンゾウ)」といい、甘味料・薬用として広く用いられるが、本種の根は利用されない。

ちょうせんにわふじ

Indigofera Kirilowii Maxim.

朝鮮、満洲、北支那に自生する落葉性亜灌木で、高さ40-60cm許、稀に人家の石垣等に栽植せられる。茎は硬く、叢生し直立又は斜上し、疎に分枝する。葉は奇数羽状複葉をなし、やや短柄を有して互生し、小葉は4-5対、楕円形又は広卵形、先端に微凸頭があり、両面に疎に圧毛を敷き、上面鮮緑色、光沢なく、下面帯白色を呈し、托葉は早落性。初夏の候、葉腋から長い総状花序を出して淡紅色の蝶形花を開く。花序は葉を超出するが、ニワフジ *I. decora Lindl.* よりやや短い。花は長さ1.5cm許、萼歯は低3角形、微毛があり、花後円筒状の長莢を結ぶ。

ゆくのき

一名みやまふじき

Cladrastis sikokiana Makino

本州(関東以西)、四国、九州の深山に稀産して大樹をなす落葉喬木。枝は平滑であるが、幼時は褐色綿毛があり、葉を互生し、長さ20-30cm、小葉は9-11個、葉柄は2-3cm許あり、基部は膨んで内に白色毛のある腋芽を完全に包む。小葉は羽軸に互生し、短柄があり、長楕円形、基部上側は少しく膨大し、下方のものは卵形、先は鋭尖し鈍端、基部鈍形又は円形、全縁、下面は帯白色、中肋上に毛である。夏日、葉より短かい円錐状をなす複総状花序を枝端に頂生し、白色の蝶形花を稍密に開く。その長さ1.5cm許、萼は鐘形5歯、短軟毛があり、雄蕊10個は離生、花後扁平な長莢を結び、数個の種子を取め、通常開裂しない。ユクノキはもと秩父地方に於けるこの樹の方言である。



第 3507 図



第 3508 図